

2020年度
事業計画書

目 次

1. 方 針	1
2. 事業計画	
(1) 科学振興のための研究助成と研究交流	2
(2) 日中未来共創プロジェクト	5
(3) 科学知識の普及・啓発	7

1. 方針

日本科学協会は1924(大正13)年に、前身である(財)科学知識普及会として設立され、雑誌『科学知識』の刊行を通し、難解な科学を多くの人々に少しでも解りやすく伝えることをそのミッションとしてきた。

昨今の日本の科学界を見ると、日本人が自然科学系でノーベル賞を2年連続受賞するなどトップレベルの研究水準にあることが示されている一方で、「選択と集中」「出口重視」の政策により、学術論文数での後退、若手研究者のポストク問題、基礎研究に没頭しにくい成果重視の風潮、研究データの改ざん問題など、多くの課題を抱えている。こうした状況の下、「研究者の育成」と「日中の文化交流」を二大テーマに据えながら、引き続き「社会と科学をつなぐ」「日中友好」という使命を果たすため、下記の通り、2020年度の事業計画を策定した。

(1) 科学を担う人材の育成

科学に関する若手研究者の育成を図るため、300件を超える科学研究に対する研究費の助成を行うとともに、研究助成のOBに対するフォローアップの強化等を通じ、研究成果の社会への発信に努める。また、専門化・細分化が進む研究者としての素養がバランスよく醸成できるよう各種研究会を主催し、社会が直面する課題の解決に活用されるよう、ウェブサイト等でその成果を広く公表する。更に、科学に対する好奇心旺盛な高校生を対象に、専門家が主にメールで個別指導を行うサイエンスメンタープログラムを実施する。

(2) 日中関係の未来を担うグローバル人材の育成

中国においては、大学等に対する再活用図書の寄贈、大学生等を対象とした日本に関する「知識大会」、「読書感想文コンクール」、「研究論文コンクール」の各事業による知日派育成、日本においては、若者を対象とした中国に関する「作文コンクール」による知中派育成を図るとともに、各事業に係る日本招聘・中国訪問を連携実施することにより日中相互理解の促進を図り、両国関係の未来を共創できる環境を民間から整備する。

(3) 科学の魅力を社会に伝える

本会が制作した「科学実験のデータベース」「立方体地球の動画」「生命科学の電子テキスト」等の科学に関する情報や教材、もしくは、本会が主催するイベント等を通して、科学の不思議や面白さを知ってもらう機会を提供し、子供や学生、一般の方等に対して、科学的素養の醸成を図る。

2. 事業計画

(1) 事業名「科学振興のための研究助成と研究交流」

科学研究の将来を担う若手中心の人材の育成と、その研究を奨励し併せて研究交流の推進ならびに研究成果の社会還元に努めることにより、科学振興のさらなる充実を図る。

【日本財団助成事業】

① 若手研究者の研究奨励

イ. 学術研究助成

- イ) 実施内容：萌芽性、新規性または独創性のある他からの助成が受け難い研究に対して助成を行う。
- ロ) 募集方法：一般公募による募集
- ハ) 対象となる研究：人文・社会科学および自然科学（ただし、医学を除く）に関する研究
※各分野の中に「海に関係する研究」を含む
- ニ) 対象者：大学院生あるいは大学等の所属機関で非常勤・任期付き雇用研究者であって、35歳以下の者（外国人留学生を含む）
※「海に関係する研究」は正規雇用者も含む
- ホ) 助成金額：約650千円/件（助成予定件数 290件）

② 特定分野の研究奨励

イ. 実践研究助成

- イ) 実施内容：教育・学習・自立支援等を行う様々な組織・団体（NPOを含む）において、その実践の場における社会的要請の高い研究への支援と、質的向上を目指して助成を行う。
- ロ) 募集方法：一般公募による募集
- ハ) 対象となる研究
 - a. 教員・NPO職員等が行う問題解決型研究：
学校、NPOなどに所属している者が、その活動において直面している社会的諸問題の解決に向けて行う実践的な研究：
 - b. 学芸員・司書等が行う調査・研究：
学芸員・司書等が博物館や図書館等の生涯学習施設の活性化に資するために行う調査・研究
- ニ) 対象者：専門的立場にある者（教員、学芸員、図書館司書、カウンセラー、指導員等）あるいは問題解決に取り組んでいる当事者など
- ホ) 助成金額：約250千円/件（助成予定件数 20件）

③ 研究助成の推進

イ) 実施内容：研究分野の動向や研究環境の変化などを勘案した上で助成方針を定め、それに即した募集および審査・選考を行い、本会独自の助成姿勢を示し研究助成の意義を高める。

ロ) 2021年度「笹川科学研究助成」助成計画策定

- a. 募集要項、選考方針等の策定
- b. 研究計画内容の評価ならびに審査・選考
- c. 2021年度の研究助成計画の策定

ハ) 笹川科学研究助成の研究成果の管理

笹川科学研究助成を受けた者（笹川助成研究者）から提出された論文別刷等研究成果の整備・保管

ニ) 研究助成実績に関する資料の整備

「笹川科学研究助成」の実績についての分析および統計資料等の整備

④ 研究成果公表支援

イ. 海外発表助成

イ) 2020年度助成

- a. 実施内容：海外研究集会（学会等を含む）において、研究成果の発表を行う研究者に対し、渡航費など必要な経費の助成を年4回に分けて行う。
- b. 対象者：笹川科学研究助成を受けた国内に居住する研究者
- c. 助成金額：約200千円/件（助成予定件数 70件）

ロ) 2021年度募集周知および第1期助成計画策定

⑤ 「笹川科学研究奨励賞」受賞研究発表会の開催

イ. 「笹川科学研究奨励賞」

イ) 対象件数：2019年度助成者のうち、領域ごとに選出された計16名以内

ロ) 賞の趣旨：単に研究の内容や成果のみに捉われず、研究に対する取り組み姿勢など笹川科学研究助成らしい視点も加えて評価し、表彰することによって若手研究者の研究意欲を高める。

ハ) 選考：研究領域別選考委員会にて選考する。

ニ) 表彰内容：賞状および副賞各100千円

ロ. 研究発表会の開催

イ) 開催時期：2020年4月下旬（下記の「研究者交流会」と同日開催）

ロ) 実施内容：「笹川科学研究奨励賞」受賞者による研究成果の発表と質疑応答

ハ) 参加者：笹川助成研究者、指導教官、関係者など約350名



⑥ 研究者交流会（研究奨励の会）の開催

- イ. 開催時期：2020年4月下旬
- ロ. 実施内容：助成決定の通知、来賓の挨拶、研究者の相談指導、研究者の相互交流
- ハ. 参加者：2020年度助成者（自由参加）、来賓、指導教官、関係者など約350名

【自主事業】

研究成果の社会への発信や、笹川科学研究助成を受けた研究者（OB・OG）のフォローアップ事業の充実のため、昨年に引き続き以下の事業を実施する。

⑦ 研究成果発表会の開催

- イ. 開催時期：2020年9月（予定）
- ロ. 実施内容：笹川科学研究助成を受け研究者として活躍しているOB・OG4～5名による研究成果の発表と質疑応答。昨年に引き続き海洋分野に関することをテーマとし、関心をもった企業に参加してもらう。
- ハ. 実施方法：企業を会員としている海洋関係の社団法人と連携して企業に関心を持ちそうなテーマで研究成果発表会を開催する。発表者は、OB・OGに公募し選定する。



事業費総額：290,340千円

【日本財団助成事業費 ①～⑥】

288,940千円（事業費：236,400千円、事業管理費：52,540千円）

【自主事業費 ⑦】

1,400千円（事業管理費を含まず）

(2) 事業名「日中未来共創プロジェクト」

“知”をキーワードとした図書寄贈、知識大会、作文コンクール等の多様な事業及びこれに係る招聘事業を日中両国で実施することにより、日中関係を担う人材の育成を図り、両国の未来を共に創ることができる環境整備に寄与する。

【日本財団助成事業】

① 図書寄贈

イ. 実施内容：各方面への協力依頼を通じて日本で図書を収集し、選定・調整のうえ要望に基づき中国の大学等に継続寄贈する。

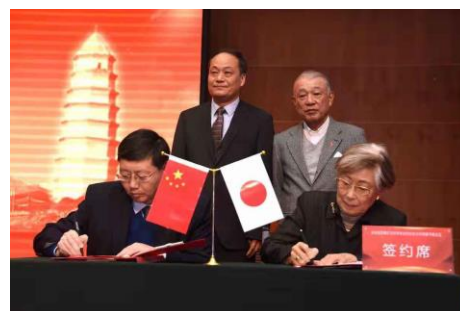
ロ. 図書の収集、寄贈

イ) 収集：8万冊/年

ロ) 寄贈：8万冊/年

ハ. 寄贈対象：中国83大学等

ニ. 寄贈方法：中継寄贈システムにより集約寄贈



② 笹川杯全国大学日本知識大会

イ. 実施内容：中国全土の大学の日本語学習者が一堂に会して日本知識や日本語能力を検証する機会となる日本知識大会を開催し、優勝者等を日本に招聘する。過去問題をベースに日本知識大会を疑似体験できるゲーム型コンテンツをweb上に開設する。

ロ. 参加者：中国全土の約100大学の日本語学習者

ハ. 日本招聘：優勝者等 合計40名

(2020年度分 20名、2019年度分 20名)

③ 作文コンクール

イ. 笹川杯本を味わい日本を知る作文コンクール（日本語版、中国語版）

イ) 実施内容：中国全土の若者を対象として、日本関係図書等の感想文を日本語、中国語で募集する作文コンクールを開催し、優勝者等を日本に招聘する。

ロ) 共催機関：人民中国雑誌社（日本語版）

上海交通大学図書館（中国語版）

ハ) 応募資格：16歳～35歳の中国国民（日本語版）

中国の大学生（中国語版）※中国全土の大学図書館を窓口とし応募

ニ) 日本招聘：優勝者等 合計20名

(2020年度分 10名、2019年度分 10名)

ロ. Panda杯全日本青年作文コンクール

イ) 実施内容：日本全国の若者を対象として、“中国”をテーマに日本語による作文コンクールを開催し、優秀賞受賞者等を中国に派遣する。

ロ) 共催機関：人民中国雑誌社、中華人民共和国駐日日本国大使館

ハ) 応募資格：16歳～35歳の日本人

ニ) 中国訪問：優秀賞受賞等26名

④ プロジェクト20周年記念誌（中国語版）出版

イ. 実施内容：プロジェクト周年記念誌の中国語版を発行する。

ロ. 発行部数：1,500部

⑤ 新規関連事業等の企画・立案

【笹川科学活性化基金事業】

⑥ 「笹川杯日本研究論文コンクール」

イ. 実施内容：中国全土の大学の日本語専攻の学部生を対象に日本に関する研究論文コンクールを開催し、成績優秀者等を日本に招聘する。

ロ. 共催機関：中国教育部大学日本語専攻教学指導分科委員会、中国日語教学研究会、吉林大学

ハ. 応募資格：中国全土の大学の日本語専攻の学部生

ニ. 日本招聘：成績上位8名（上限）

（2020年度分 4名（上限）、2019年度分 4名（上限））

事業費総額：135,960千円

【日本財団助成事業費 ①～⑤】

127,440千円（事業費：76,400千円、事業管理費：51,040千円）

【笹川科学活性化基金事業 ⑥】

8,520千円（事業管理費を含まず）



(3) 事業名「科学知識の普及・啓発」

高度な科学・技術社会を健全に維持するには、敬遠されがちな科学・技術への関心を高める必要から、次代の科学・技術を担う人材を育成し、難解となりがちな科学・技術を分かりやすく身近な形で一般に伝える事業を行い科学知識の普及・啓発に資するものである。

【モーターボート競走法制定40周年記念事業】

① 「科学実験データベースの公開」

身近な生活のなかにも、実は密接なかかわりを持っている「科学」の世界を、ウェブサイトを通じて公開すると共に、「科学実験」イベントを開催し、科学・技術への関心や理解の向上に努める。

イ. 実施内容：科学実験のデータベースや、自然や文化に関する話題を、ウェブサイトで公開し、「科学実験」イベントを開催する。

イ) 「科学実験データベース」の公開

科学実験や体験遊びを地域や家庭で、あるいは学校や科学クラブなどでも手軽に取り扱えるように、アイテムの選出を容易にする検索項目を設けて公開する。

ロ) 「コラム」の公開

大人の知的好奇心や探究心を満たすとともに、子供たちの教育や指導にも活用できる自然や文化に関する様々な話題を公開する。

ハ) 「科学実験」イベントの開催

科学実験を行う機会の少ない離島に出向き、サイエンスキューブ(移動式暗室)を用いて地域密着型の科学実験イベントを行う。

ロ. 実施方法：本会の公開に向けて当初から協働して作り上げてきた兵庫教育大学原体験教育研究会に委託して実施する。

② 地球科学の理解促進

身近な科学の面白さや不思議さを伝えるためのイベントを開催し、気象現象や地球科学の理解促進に努める。

イ. 実施内容：本会で制作した短編映像「Cubic Earth—もしも地球が立方体だったら—」を利用したワークショップを開催する。

ロ. ワークショップの開催

イ) 開催日：2020年秋頃 2日間

ロ) 対象者：小学校高学年～中学生及びその保護者 100名程度

ハ) 場所：都内の科学館等

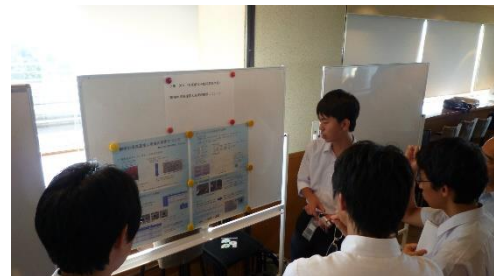
ニ) 講師：気象や理科教育の研究者



③ 中高生のためのサイエンスメンタープログラム

学校教育の枠にとらわれない高度な専門研究レベルの科学教育のプログラムを実施し、次代の科学・技術を担う人材を育成する。

- イ. 実施内容：科学に関心を持ち、個人もしくは小グループで科学研究を進めている中学生・高校生（メンティ）に対して、経験豊かな自然科学・応用科学の専門研究者（メンター）から、科学研究の基礎を一定期間学ぶことができる機会を提供する。
- ロ. 対象件数：20件程度
- ハ. 研究期間：原則半年～1年
- ニ. 研究発表会：年2回、研究発表会を開催する（8月と3月を予定）。
- ホ. 募集と審査・選考：年間を通して参加希望者を公募し、サイエンスメンター事業委員による審査・選考を行う。



【笹川科学活性化基金事業】

④ 生命科学テキスト「人間の生命科学」プロジェクト

現代社会を生きる人間にとって必須の基礎知識になっている生命科学を、従来の教科書とは異なる本会独自の『「人間の生命」を軸にしたスタイル』という視点で制作したテキストを使い、若い世代や一般の方へを対象に、生命科学の基礎知識の普及・啓発を行う。

イ. 実施内容：

- イ) 普及活動：研究会メンバーからの紹介や、理科教育教員の勉強会、研修会等での広報ツール配布、ケースレコード動画の撮影等により、利用者拡大へ一層の普及・利用拡大を推進する。

ロ) 内容の改訂：

執筆を担当していただいた専門家へ、本テキストの内容を「新しい知見、学術的解釈の変更、社会情勢・技術開発、環境等の変化」等の視点で改訂し、より新しい情報を盛り込み、価値を高めるための改訂を行う。

ハ) 問題集の作成・公開：

本テキストを授業で利用する教員の便宜を図り、併せて学生・生徒の学力の定着を目指ため、専門家による生命科学に関する問題集を作成する。また、学生・生徒が、サイドノート等を利用しながら問題に取り組む機会を提供し、生命科学への興味を深める。

ニ) 新規展開（一般向けの発信）の企画・検討：

教育現場の副教材という位置づけから離れて、人間の生命科学は“現代社会に生きるための基礎知識”という本プロジェクトの趣旨から、一般への普及に向けて、どのような発信をすべきか検討し、事業企画案を検討する。

⑤「科学隣接領域の研究」

研究者としての「素養」を育て、総合的な視野を持った「創造的な研究者」への育成を目指す。

イ. 実施内容：自然科学の枠を超えた領域の専門家が集まり、宗教、倫理、芸術を切り口に科学研究や研究者について議論し、その成果を講演会や出版によって、研究者や研究者を取り巻く人々に発信する。今年度は「科学と倫理」、「科学と芸術」に取り組む。

ロ. 実施方法：

イ)「科学と倫理」出版

前年度開催した「科学と倫理」セミナーの内容を中心とした書籍を出版し、「科学と倫理」研究会での成果を発信する。

ロ)「科学と芸術」研究会（2回）

科学と芸術について議論を重ね、セミナーを企画する。

ハ)「科学と芸術」セミナー

「科学と芸術」研究会での成果を中心に、研究者が自身の専門分野だけではなく、異分野と融合し、新しい発見に繋がる感性の豊かさや、新しい価値観を取り入れることを目指し、セミナーを開催する。



事業費総額：50,870千円（事業費：39,420千円、事業管理費：11,450千円）

【モーターボート競走法制定40周年記念事業 ①～③】

18,770千円

【笹川科学活性化基金事業 ④⑤】

20,650千円